

第1回甲斐市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成29年10月19日(木) 午後1時30分
- 2 場 所 甲斐市役所 新館2階 教育委員会会議室
- 3 開 会 午後1時30分
- 4 出席者 保坂武市長 西山豊教育長
長田明美職務代理者 柳本博美委員
中込正久委員
- 5 傍聴人 なし
- 6 事務局 内藤博文企画政策部長 生山勝教育部長
丸山英資秘書政策課長 樋口充教育総務課長
内藤和彦学校教育課長 坂本公彦学校教育指導監
大木康総合政策係長 名取藤吾教育総務係長
河野晴美教育総務係員
- 7 市長あいさつ
- 8 教育長あいさつ
- 9 議題
 - (1) 学力向上に向けての甲斐市16校の取り組みについて
 - (2) 不登校・いじめの現状と対策について
- 10 その他
- 11 閉 会 午後2時50分

○開 会

事務局 開会を宣する。

事務局 自己紹介

○市長あいさつ

市 長 みなさん、こんにちは。

本日は、お忙しい中、平成 29 年度 第 1 回総合教育会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

教育委員の皆様には、平素より甲斐市の教育行政の推進にご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

今回、長田明美委員が 11 月 2 日をもって、1 期 4 年の教育委員の任期を終えられますが、10 月 2 日の議会本会議におきまして、教育委員の任命に同意が得られました。11 月 6 日に任命式を行う予定となっておりますので、引き続きよろしくお祈いします。

この総合教育会議につきましては、今年度も今までと同様に、首長と教育委員会が十分に意思疎通を図り、地域の教育課題、あるべき姿を共有し、様々な調整・協議ができるよう進めて参りたいと考えております。

さて、昨年度の総合教育会議では、学校訪問を終えての感想・ご意見、また、全国学力・学習状況調査結果や、教育委員会関係予算及び主要事業等、甲斐市の教育に関してご意見をいただくことができました。ご心配をいただきましたエアコンの工事につきましても、工期が 12 月末になっており、来年は稼働できることとなります。

本日は、議題として「学力向上に向けての甲斐市 16 校の取り組みについて」と「不登校・いじめの現状と対策について」でございます。

先日、平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果や、山梨県学力把握調査結果が出ました。こうした状況を基に各小中学校で課題を把握し、学力向上の取り組みを考えております。

教育委員の皆様にも学力向上の具体的な方策などについて、議論を深めていただきたいと思います。

また、不登校・いじめ問題につきましては、いじめは不登校になる原

因の一つでもあります。相互とも密接なかかわりがありますので、効果的な取り組みなどご意見をいただきたいと思ひます。

限られた時間ではございますが、是非、活発なご論議をいただき、有意義な会議となりますよう ご協力をお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○教育長あいさつ

教育長

みなさん、こんにちは。

教育委員会を代表いたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、平成 29 年度 第 1 回総合教育会議が開催され、教育委員会といたしましては、大変意義深いものと考えております。

市長におかれましては、先月末から「やはたいぬくん こどもあいさつ運動 ～字をおぼえようキャンペーン～」にご出席をいただき、やはたいぬくんと子どもたちがふれあう中、あいさつをかわしながら「字をおぼえよう」・「字をきれいに書こう」などと子どもたちを激励していただきました。

教育委員も近くの小学校の「字をおぼえようキャンペーン」に参加し、子どもたちと一緒にふれあいました。

さて、本日の議題であります、「学力向上に向けての甲斐市 16 校の取り組みについて」、及び「不登校・いじめの現状と対策について」は、教育委員会に於いても重要な教育課題の一つであります。これらの教育課題の一つ一つを協議しながら、市長と教育委員会が連携をして、教育行政の推進を図って参りたいと考えているところであります。

本市の財政状況の厳しい中、市長は子どもたちのことを最優先に考えていただき、現在、竜王・敷島地区の 13 の小中学校のエアコン空調設備工事、竜王北小学校及び敷島小学校大規模改修工事並びに玉幡中学校給食室改築工事など教育施設の整備を進めているところであります。

同時に、創甲斐教育を推進するため市単教員・学校教育支援員の複数配置や、就学援助費の補助単価の引き上げなど様々な支援や協力に対して、大変感謝しております。

未来を担う子どもたちは甲斐市の宝、社会の財産、地域の希望です。

本日は、甲斐市の教育行政の充実発展と「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」を基本理念とした創甲斐教育の推進に向け、活発で有意義な情報交換ができることを願っております。

よろしく申し上げます。

○議題

(1) 学力向上に向けての甲斐市 16 校の取り組みについて

市長 担当からの説明をお願いします。

事務局 (資料説明)

委員 今まで何年か学力調査をしてきた中で、傾向として全国に近づいているのでしょうか。

事務局 創甲斐教育ということで、教職員も学力の定着・向上に向け取り組んでいます。それから支援員の複数配置をはじめ、様々な対応をした結果、県や国との差は縮まっている、教科によっては上回っているという状況です。

事務局 昨年から良い形で徐々に全国に近づいている状況ですが、年によって多少は山あり谷ありというところがあります。全体でみると全国に近づいているといえると思います。

特に支援員の果たす役割の大切さにつきましては、学校も職員も子どもたちも感じていて、支援員が巡回にいった時、小学校 3 年生の子どもから「先生が 2 人もいてくれて僕たちは幸せだ」という声がありました。

委員 市からもいろいろな財政的な援助があり、全体の基本を上げていくということが生きてくればこれからの方向が見えてくるような気がします。一度に上げるというのは難しいです。問題数も少なく、年によって内容が違うので、山あり谷ありということですが、徐々に上がっているということにこれまでの取り組みの効果があつたと感じました。

委員 学力を定着させるということが向上につながると思いますが、学習指導要領に示されている内容が基礎基本です。それをどれだけ教職員が把握しているのか気になります。その調査が特別に市で出来るようであれば、学習指導要領の示されているものの定着度がどれだけあるか、どれだけ意識して取り組んでいるかが見えてくるような気がします。今、山

梨県独自の学力の定着と向上についての取り組みをしている、市もそれに向けて取り組みをしている中で、こういう調査結果を学校ごとにまとめて一覧表にして各学校の課題を見やすく整理された資料は大きな力があると、今年は特に強く感じています。教育委員会の体制も整っていることによりこういうことも実現しているという気がします。

人的なところの成果とどうマッチしているのかと多方面から見る必要があるので、よろしければここで山梨県と甲斐市の学習の定着・向上への取り組みについて説明をしていただければ企画政策部の人にも理解していただけるかなと思います。

事務局

教職員の意識がどうなのかというところですが、課題として今までいた職員も新しく赴任した職員も創甲斐教育の取り組みというのをいかに定着させていくか、学校長だけが理解してがんばれと言ってもなかなか浸透していきませんので、そこが課題だと捉えています。

秋田県や福井県の学力が高い一つの理由に、授業をお互いに見あってアドバイスしたり、指導主事が訪問して授業の改善点をその場ですぐに指導したりするという方法をとっているということがあります。本市は指導主事、指導監が配置されていますので、学校への訪問回数は多くなっています。お互いに授業を見てアドバイスをして確認するということが他よりはできている、そこはいい方向に向いていると感じます。

委員

山梨独自の定着に向けての授業改善についてはどうでしょう。

事務局

山梨では学力に関しては、山梨スタンダードというものがあまして七つの視点で取り組み、授業の中でしっかり理解しましょうとか、家庭学習とのつながりを持った授業展開をするというような内容です。今、全国的にどこでも同じような方向を向いて取り組んでいることですが、山梨県独自でもこのようなものがあります。山梨スタンダードの定着も含めて、中学校ですけど学力向上対策委員会を開催しまして、市内の中学校でまず山梨スタンダードの目標と理解については丁寧に取り組みましょうということで実践したところ、かなり徹底されています。学校を回りますとスタンダードに則った授業展開が基本的には行われているところ。非常に足並みが揃いやすくなったという印象を持ちます。

教育長

今年の学校訪問で特に感じたのは、中学校では、目標の「も」という

字を黒板に貼って、今日の授業の目標はこれということを示し、振り返り、・まとめの「ま」という字を貼って今日の授業は何をしたかを示して授業を大切にしているということを非常に感じました。

それから、小中連携ということがだんだん入ってきていると感じます。竜王地区でも敷島地区でも双葉地区でも同じ中学校へ行くのだから小学校の時に授業規律を同じようにしましょうという取り組みが、小学校の校長先生の中で出来てきています。そういう取り組みの中で、家庭学習も同じように取り組みましょうということで先生たちが動いてきています。小中連携ということ、中1ギャップをどう外していくかということを感じました。

委員

学力向上で、先ほどの話の中で、めあての「め」で今日は何を勉強するのかということをしっかりつかませることを日常生活の中でやっていけば、問題の中で何を聞かれているのかつかみやすいと思います。特にそれを教えるなどということとはできないので、普段、生活していくあるいは授業を組んでいく、学校訪問の中で、中学校である程度「め」と「も」が意識されているけど、それが全体に広がっていった勉強とはこういうものだよと、自分で問題を見つけて、自分で課題を作って、授業の中でわかってどのように応用していくというところまで発展していければ理解できる授業が定着していくと思いました。

小学校と中学校の連携はまだ始まったばかりということなので、来年度に向けて推し進めていき職員の意識として連帯していくことは大事だと思います。

この資料だけをみると、子ども自体にはやる気があると言えばやる気がある、大まかに言えば本市の子どもたちはよく頑張っていると言えます。それを学力に結びつけるには日常的な授業のあり方が子どもに意識されていくことが大事ではないかと思います。

委員

市長が「字を上手に書こう」「国語力を向上しよう」ということで硬筆、毛筆を小学生に取り組ませています。毎年、字が上達しているのがよくわかります。実践することによって、子どもたちの字も変わってきているなど感じます。継続する力の大きさというのを感じました。今していることの良さが発見できる、何が大事かということを確認にする

ことによって、継続の力が子どもに還元できる気がします。何をどう還元していくのか、授業の中で導入の段階とまとめの段階ということが明確に子どもたちに伝わってきているのは、山梨スタンダードの良さです。甲斐市もそれに向けて、中学校では学力向上のための授業改善の指定を受けて取り組んでいてそれが還元できている状況です。何をどうすればこの地域に根ざせるのかというものへシフトしていく必要があるかなということを感じています。そういうものが出来て初めて本当の定着、全国を超えるというより子どもたちのためになってくるような気がします。その結果が見えてくればということで、出来れば市長にも目的があってまとめがあってという、今までと違う学校の授業の様子を垣間見ていただければここでの話が実感してもらえるかなと思います。

教育長

先週、校長会・教頭会・教育協議会・市P連から要望書が提出されました。その中でエアコン設置、支援員の継続の感謝の気持ちがたくさん入っていました。

委員

学校訪問をして、先生たちの授業の進め方とか黒板の掲示物とか、非常に工夫をされていて、しかも学校ごとの子どもたちの特徴に合わせた対応をしてくださっているなということを感じとても感謝しました。

今回の調査の中で無回答率が全国を上回る場所が多かったというところが残念だなと思いました。わからなくても、途中まで挑戦してみるとか、チャレンジする心が今年に関しては少なかったのかなと残念で、そこに対する取り組みも、今後、進めていくことが必要かと思いました。

将来の夢や目標を持っている子どもたちがとても多いということはどういうことなのですけど、最近、先生が黒板に書いて「ここが大事だよ」と言うと、「先生それは将来役にたつの」とか「大人になっていつ使う時があるの」と聞く子どもたちが多いということです。将来の夢は途中で変わってもいいと思うのですが、「将来、何になりたいの」「それになるためにはどんな勉強が必要なの」「ではこの勉強が大事だね」というような具体的に何が必要か、また必要だと思わないとなかなか覚えられないというところがあります。せっかくたくさん取り組みをしてくださっているので、もう少し子どもたちのメンタル面、やる気、勉強に対する意欲とか、自分の将来に勉強をつなげていきたいという思いをもっと

持てるように、語りかけとか呼びかけとかも大事なことのかなと感じました。

市長 改善点等のご意見をたくさんいただきました。
ありがとうございました。

(2) 不登校・いじめの現状と対策について

事務局 (資料説明)

市長 心配するようないじめというのは無いということですね。

事務局 今のところ非常事態といわれるようないじめはありません。

市長 私が就任した平成20年12月に県の教育委員会へ行ったら、山梨県の不登校率が多い、一番多いのは甲斐市だと言われました。一番下であれば上に上がるしかないですが、どうしたらよいかという話をしました。みんなで頑張ろうということで、2、3年で解決して県下でも少ない方になりました。

委員 当時、全国調査をした時に、山梨県の不登校については、30日以上になればすべて不登校であるという扱いで、病欠でもすべて不登校にしたので出席率がものすごく高くなってしまいました。もう1回見直しをして、正式に色分けをしたら率が下がりました。いじめも同じです。今、抜け出すことのできないようないじめが出現しているということは信じられない状況で、教師が原因という事件が今出ていますが、いまだに起こっているのかと驚いています。

委員 学力の問題にしても不登校の問題にしてもいじめの問題にしても、教師に余裕がなければ手が回らないということがあります。もし財政面で余裕があればですが、かなり高額のようなのですが、甲府市は校務支援ソフトを入れていて効果はあるようです。一括管理も出来るということで、一度入力すれば通信表や指導要録などにも反映できて、校長も欠席者が把握できるということです。何日休んでいるかも、担任が言わなければわからないところですが、これがあれば校長にもわかります。

先日視察した三鷹市では、先生たちが小中連携や地域との関わりで忙しいですが、校務支援ソフトを入れて教師の業務を軽減していました。その分、子どもに目を向けたり、小中連携に目を向けたりすることがで

きます。今年エアコンが設置されましたが、次は教員の多忙化の解消のために校務支援ソフトの導入をお願いしたいと思います。

事務局

校務支援ソフトの関係ですけど、国でも県でも教員の多忙化の改善ということが言われています。その中で改善策の一つとして校務支援システムの導入ということが掲げられています。県内でも多くの自治体で導入していて、その効果として、今委員さんが言われた通り多忙化の改善が図られる、またシステムを導入することにより先生たちが共通のものを見ることができるということがあります。

現在、甲斐市では市販の校務支援システムの代わりにパソコンに精通した教員が作成した自前の簡易的なシステムを使っております。

校務支援システムは教師同士でも情報の一元化が図れるといったメリットがあると言われておりますので、今後、本市では市販の校務支援システムの費用対効果や現在使用している自前のシステムを検証して参りたいと考えております。

市長

その他何かご意見ありますか。

一同

なし。

(3) その他

市長

創甲斐教育推進大綱の中で、後期が31年度までですが、委員のみなさんにご協力をいただいて進めております。2学期から「字をおぼえようキャンペーン」をやりたいぬにしてもらおうということで、竜王小学校を皮切りに全小学校を回っています。委員さんにもご指摘いただいて「字をじょうずに書こう」というのではなく「字をおぼえよう」ということで、そうすることで自然に上手に書けるようになるのではないかと思います。基本理念として「甲斐市で育ち甲斐市を育てる人づくり」の実現ということで行っているところです。山梨県の教育委員会でも「八」のつく日は家庭学習振り返りの日として八か条を提唱しております。4番目の「学びの土台をつくる」ということに着目し、基礎基本をつけることが大切で、それには幼少期、4才から8才の教育が大事ということが言われています。これにつきましては、神経回路が形成される4才から8才くらいの間に基礎知識、集中力を身に着ける学習及び心身

の土台作りが必要ということがうたわれております。4才からとなると保育園の問題になってきます。集中力とか瞬発力とかいろいろありますが、保育園・幼稚園の時代から小学校3年生くらいまでに着目して、3年くらいかけて研究したらどうかと考えております。したがって授業内容では、1日1回字を書くとか計算をするとか市内の保育園でも指を使って10までの足し算、引き算をしてみるとか、取り組んでいます。プレゴールデンエイジが4才から8才、ゴールデンエイジが9才から12才、ここまでの間に関心を持っていく必要があるということで、教材がいろいろとあるので市で用意をしたり、お風呂の中でお父さんやお母さんと勉強が出来る手拭いを作って、遊びながら字をおぼえるようにしたりすることなども考えていますが、また、ご指導をお願いします。

ここに竜王小学校の校歌がありますが、旧竜王町の小中学校9校のうち7校の校歌に山県大弐に関する言葉が入っています。柳荘大弐学問祭が秋にあります、小学校1年生になる子どもの名簿と小学校卒業、中学校卒業の子どもの名簿を献上するというで始まったのですが、そのうち宗教の関係で難しくなりました。私が国会議員をしていた時に招待されましたが、その時献上されたものには名簿がついていませんでした。先日のお祭りでも一部の名簿がしかありませんでした。これではあまり意味がないですので、コピーでもいいので、名簿を入れていただければいいと思います。

教育長

最初の手拭いとか、字を覚えようというのは、今までキャンペーンをしてこれから仕掛けを作るという意味で、具体的に取り組んでいくということでいいと思います。

市長

4才、5才の時に字を覚えたりしないといけないと感じていて、その予算はいただいたふるさと納税を教育に向けられたらと考えています。

以上で、議題については終了します。

○その他

事務局

その他ということで、今、市長から教育政策・施策、山県大弐のことが出ましたが、教育委員会でもこの内容について、定例の教育委員会の中で図って参りたいと思います。

全体のその他ということで委員のみなさまから何かありますか。

委員

学力向上について、各学校の取り組みを市長はじめ関係の方々に、学校訪問をして授業を参観していただき給食も試食していただければと思います。学校の様子を見てもらいたいと思います。

委員

学校の支援ということで、校務支援ソフトについてもよろしくお願ひします。

委員

先日の 2025 年問題のフォーラムの中で、これから甲斐市の高齢化が進み、一人暮らしの高齢者も多いということですが、一人暮らしのお年寄りに、朝、小学生が集団登校の時に「おはよう」とあいさつをして、「おはよう」と返すことで、これまで引きこもりがちだったお年寄りがきちんと着替えて表に出るようになったというお話がありました。一人暮らしのお年寄りと子どもたちが触れ合う機会や、今母子家庭が増えているので、家で一人で過ごす子どもとお年寄りがうまく連携できるようなことが考えられるといいと、フォーラムに参加して思いました。

事務局

その他に何かありますか。

よろしいでしょうか。

一同

異議なし

事務局

次回の総合教育会議ですけど、来年1月の下旬から2月の上旬を予定しておりますので、よろしくお願ひします。

○閉会

事務局

閉会を宣する。

閉会時間 午後2時50分